インターネット対応マガジン
www.myspace.com/mixsproindiejapan
www.mixspro.com
2007
4
vol.13
mixspro indie japan

# デビューNow

Indie magazine of Japan
インディーズが面白い!

FREE

## Pick up artist

- Quesera spunky roars
- mellowsgarden
- C.O.R.E.
- sugarbuzz
- THROW
- FEIN10TRAP
- Life Guard
- HANABI

## 奴らが帰ってきた

iTunes Music Storeでアーティストの楽曲DL開始!
THE GREATEST ROCK' N ROLL
ちょっと早い大花火大会
3ピースバンドが熱い!
スピリチュアルなハイトーン・シャウト
鳴きのヴォーカリストは誰?

今月の表紙:Quesera spunky roars

Smile and Your Message

INSATSU KAKAN

あなたの言葉をお伝えします

03 5155 8877

カラー片面 A4一枚
ポストカード¥1,800〜

100枚片面カラー
チラシ¥5,250〜

10個22mm以内の場合
ステッカー¥2,000〜

B3(364×515)一枚
ポスター¥5,250〜

カード片面 50枚
缶バッジ¥3,200〜

■名刺
■案内状
■チケット
■ポスター
■フライヤー
■ポストカード
■モノクロコピー
■カラーコピー
■Tシャツプリント
■パウチ加工
■メニュー
■コースター
■名入ティッシュ
■シール
■ノベルティーグッズ
...etc

印刷彩館 〒160-0021 東京都新宿区歌舞伎町1-2-6 三経55ビル1F
TEL.03-5155-8877 FAX.03-5155-8878



テレビューNOW vol.13 www.mixpro.com 平成19年4月20日発行(隔月1回20日発行)
発行人 天瀬山泰三/編集人 齋藤正則 発行所 株式会社ミックス
編集部 TEL.03-3225-3552 FAX.03-3225-3553 〒160-0022 東京都新宿区新宿2-13-10 第七ビル3F
FREE

彼ら4人との出会いはちょうど一年前になる。新大久保のライブハウスCLUB Voiceの事務所で本誌2号目の取材だった。あの時の時間、空気の流れは今でも鮮明に思い出す事ができる。自信過剰とも受け取れる発言、取材に対して媚びない姿勢、それでいて礼節を弁えた4人。そう、まさにあの瞬間から『Quesera spunky roars』というバンドを見続ける事になるのだが・・・。

2004年11月「とにかくカッコいいロックンロール」という思いを全ての根源において結成。サウンド、ライブ・パフォーマンス、そして生き様。一切の妥協を排除したこの思いは原石からあらゆる不純物を取り除いて現れる宝石、また米の中心部分を使った精米歩合50%以上の大吟醸酒に例えると分かりやすい。

昨年、渋谷屋根裏から始まり、下北沢CLUB251、西荻窪ターニングでのライブを観てきたが、「渋谷屋根裏King of Rookie」は今やその言葉を返上するに至っている。30分のライブは、お客に媚びず、箱、PAに媚びず、自分達には妥協を許さない姿勢と共に、綿密に考え尽くされたセット・リストにより起承転結がはっきり感じ取れる。Vo・フジイの「俺たちは喋りに来たんじゃねぇ、演奏しに来たんだ!」という言葉通り、余分なMCを挟まない彼らのステージは間延びがせず、あっという間に時間が過ぎ去ってしまう。

Dr・オカノとB・コンドウの正確なリズム隊にGt・ツルガヤ、そしてどこか哀愁を感じさせるフジイの嗄れたヴォーカルがのり、歌詞のイメージを輪郭だけでなく情景までが脳裏に浮かびあがらせる。熱と情感を持つ演奏はロックンロールの王道を突き進んでいる。昨年は都内だけではなく、関西、長野、北日本とツアーを展開してきただけに、彼らを知らなかった人はそのサウンドに魅了され、次のツアーが気になるに違いない。4月26日「Quesera spunky roars 左側ツアー2007春」のツアー・ファイナルを渋谷屋根裏で自主企画「Trinita-Blues #02」として行うと同時にツルガヤのクランチ気味のカッティングが心地良いグルーヴ感を生み出している彼らの代表曲とも言うべき「Western Carnival」をiTunes Music Storeにアップ。26日前にダウンロードして当日会場でQuesera spunky roarsの世界に飛び込む事をオススメする。又、8月24日CDリリースを予定している彼らは7月下旬から8月初旬に掛け、1楽曲をiTunes Music Storeにアップ、先行ダウンロードを予定している。更に7月西日本、信州、北日本を20日間、約15都市でレコ発ツアーを組むとの事。8月24日渋谷屋根裏「Trinita-Blues #03(仮)」で完結する。詳しくは7月発行の本誌でチェックをヨロシク!

http://happy-sunny.com/quesera

# Quesera spunky roars

**アカイロ**

1.アカイロ
2.Western Carnival
3.Gouldie's Bird

**Beatrice**

1.ベアトリーチェ
2.ルーレット
3.月が叫び出す頃に

# mellowsgarden

http://sound.jp/mellows_garden/

歌もの？ロック？それとも・・・？ 2005年8月、現メンバーが揃いメジャーデビューという夢と自信を抱き活動を開始したmellowsgarden 。四谷Outbreakで初ライブを行い、時を同じくして手売り専用マキシシングルを制作し、ライブ会場、ストリートにて 1000 枚を完売するあたり彼らただ者ものではない。

そんな彼らが昨年プロローグとも言うべき3曲入りマキシシングル「mellows」をOUTBREAK RECORDSより全国流通にて発売した。実際聴いてみると楽曲の豊かさに驚かされる。全て作詞作曲はVo ＆ G・マサシ。メンバーでアレンジし作り込んでいる。表現力豊富なマサシの作り出す歌詞は気持ち良く心に残る。大物ギターリストがプロデュースしたオーディション参加の折りに「君たちROCKしてるねぇ！」と言わしめたギターサウンドが心地良い１曲目。mellowsgardenのグルーブ感を思う存分堪能できる楽曲だ。そして3曲目。タイトル 「月唄」はOUTBREAKのブッキングマネージャー・佐藤boone学さんに「夜一人で大切な人を思い出してみて下さい。きっとこんな音楽が流れてくると思います。」と言わしめる作品。music.jpでは着うたダウンロード数が 3000回を超える。マサシの鳴きのヴォーカルが最大限に活きるサビのフレーズは一度耳にしたら離れない。彼らはこの「月唄」で月9のタイトルソングを狙いたいと笑いながら語っていたが、強ち冗談半分ではない気がする。その現れがKeyboardを入れたリミックス「月唄」をレコーディング、さらに６月よりiTunes Music Storeに楽曲をアップ、配信が始まる予定との事。

彼らのライブに足を運んでみた。オープニング、SEに自分達で音を乗せ、ヴォーカルにエフェクターを掛け、一気にオーディエンスを引き込む。まさにmellowsワールドの幕開けに相応しい楽曲。中盤に組み込まれた「月唄」からは彼らが言う「どうしようもない程の愛しい気持ち」が確かに伝わってくる。澱みのないセットリストを組み上げ、ラストまで一本調子にならない演奏に気持ち良く身を委ねることができた。

伝えたいモノを伝えられる彼らは、この夏リリース予定のマキシシングルを現在作成中らしい。「mellows」を超える作品を期待したいところだ。ストレートロックを貫き「ライブハウス武道館」に上がった暁にはmellowsgardenと打ち上げの酒宴を共にしたい。

**information**

4/23　新大久保 CLUB Voice
5/3　本八幡 route fourteen
5/16　横浜 club Lizard

**『mellows』**

1.Undying girl and "e"
2.寝音
3.月唄

￥1,000 [tax in]

HOR-1009 OUTBREAK RECORDS

Creator Of Resistance Egoの頭文字をとると「C.O.R.E.」というバンド名が出来上がる。さてこの意味を知る人は何人いるだろうか。「抗う者の自尊心を造りし者」という意味らしいが、この事を知っている人は既に彼らのサウンドに同化した人達である。彼らをご存知の方も多いと思うが、ここで改めてC.O.R.E.について簡単に紹介しておこう。

東京都内を中心に活動しているラウド&ヘヴィロックバンド。リズム隊はオリジナリティに溢れ、3点が歌っているかのようなドラムサウンド、絡み付くヘヴィなベース。そこにツインギターが乗り厚みのあるバックサウンドが生まれる。ミックス・ヴォイスがメロディアスでメランコリックなメロディラインを乗せることにより、日本のロックと言うよりもどこか海外のサウンドを感じる取ることができる。

2003年の結成以来、7カ国の海外バンドのツアーに参加しているC.O.R.E.はそのサウンドを認められ、現在、アメリカ、スイスからツアーのオファーがきているらしい。2006年11月にファンが待ちに待った1st mini album「音宴」をOutbreak Recordsよりリリース。英語と日本語で掛け合いをするサウンドアレンジ&テクニックが素晴らしく、サウンドクリエーターMARUの才能が集約されている。レコ発ツアーも四谷アウトブレイクを皮切りに、高崎、水戸、新潟、仙台、盛岡と音楽シーンの盛り上がりを見せる都市で行う。

収録曲「As a fog」がこの度 iTunes Music Storeで配信される事になる。「誰も一人では生きていけない。何かを成す前に霧のように消えるなら自分と向き合い、そして前へ進め」という内容の楽曲だが、C.O.R.E.の表現力によって英語の歌詞を理解できない人でも湧き上がる前向きな気持ちと力強さを抑えることはできないだろう。イントロのAmboが奏でるギターリフ一発でこの楽曲に吸い込まれ、サビで現れるMARUのスピリチュアルなロングトーン、バックサウンドを聴くと完成度の高さに驚かされる。

熱いライブを心掛け、誰にもマネできないオリジナリティを追求しているC.O.R.E.は、今後全国ツアー、海外ツアーを予定している。また今年9月には2nd CDをリリース予定。

# Creator Of Resistance Ego

# C.O.R.E.

**音宴** オトウタゲ

1.As a fog
2.旅の終わりに
3.Spin Your Soul
4.When you feel me
5.罪と罰

HOR-1014 OUTBREAK RECORDS

*1,000 yen* [tax in]

http://sound.jp/c-o-r-e/

デビュー NOW 1st Anniversary

# STRUTTIN'

## in shin-okubo CLUB Voice

**Vol.1　4/23 (mon)**
Open/18:15　Start/18:45

mellowsgarden
MANAMI
AB-one B
FEIN10TRAP
Life Guard

**Vol.2　5/1 (mon)**
Open/18:15　Start/18:45

THROW
Quesera spunky roars
辰野　仁
HANABI
THE DUTCH

**Ticket / 1,500Yen+1Drink**
CLUB Voice/03-5338-0938 http://clubvoice.jp
MIX's Inc./03-3225-3552 http://www.mixspro.com

## sugarbuzz

http://sugarbuzz.jp

2003年6月、G&V・AkkieとB&Cho・コバヤシ・ザ・ヨシユキが曲作りを開始。9月にDr&Cho・ケンケンが加入しラウドな音を持つロックバンド「sugarbuzz」が誕生。翌年2月に高円寺Showboatにて初ライブを行う。以来、新宿、渋谷、高円寺を拠点に月2回のライブを行っている彼らを取り上げてみた。

「4年間活動してきて似ているバンドは一つもなく、希少価値が高いバンドだ」と語る彼らが今回iTunes Music Storeにアップする「rock'n yourself」は2006年1月、ケンケン作詞、メンバー全員で作曲したものだが「I feel pleasure of rock'n roll（ロックンロールって楽しい!）」の繰り返しでストレートに耳に、心に訴えかけてくる。他の楽曲も、サウンド、プレイ、そして3声コーラスとライブを体験すれば気分が高揚し、自然と体がリズムを取る事は間違いない。来年Fuji ROCKやSummer Sonicのステージに上がっていたいと思う彼らは4月27日新宿ANTIKNOCKにて5回目となる自主企画「buzzfest vol'5」を行う予定。見逃してしまった人は5月15日の渋谷屋根裏へ。

INFORMATION
**4/27**・新宿ANTIKNOCK「buzzfest vol'5」
**5/15**・渋谷屋根裏

## THROW

http://sound.jp/throw

昨年夏、六本木EDGEで強烈なインパクトを放つバンドに遭遇した。その名は「THROW」。若者主体のライブハウス・シーンの中ではチョットだけ年配かもしれないが、溢れる音楽センスはそれぞれの活動経験の深さを物語っている。G&Vo・野村金吾、B・福光　睦、Dr・石田　要の3人編成はブルース・ロックをコンセプトに2005年末に結成。現在、渋谷、下北沢、中央線沿線でライブを行っている。一度ライブを観たら忘れられないバンドだけにご存知の方も多いと思う。

「無茶」という彼らのライブは「70年代JAMの雰囲気でモダン的焼き鳥ロック」と称している。まさにJAM感覚でギター、ベース、ドラムのソロの掛け合いは阿吽の呼吸から気持ち良いセッション・サウンドを生み出してくる。演奏している3人の顔を見ていると「今」を楽しんでいる表情で、オーディエンスの顔、体も自然とTHROWの動きに合ってくる。そんな会場の雰囲気を見てセットリストにない曲を演奏することもあるという。G&Voの巧みなテクニック、時折聴かせるシャウトする歌声。Bのチョッパーの心地よさ、Drは懐の深さからくるダイナミックかつ繊細なスティックさばき。彼らは言う「自分達の軸がぶれないように、タチ悪く活動していきたい」と。彼らの目標は何年後かに演奏している自分達自身かも知れない。ちょい悪オヤジたち（?）が繰り広げるパフォーマンスは他に類を見ないだけにオリジナル・サウンドを確立する日はそう先の話ではない。

INFORMATION
**5/01**・新大久保CLUB Voice
デビューNOW企画「STRUTTIN'」

# FEIN10TRAP

http://sundaypark.net

以前、デビューNOWで取り上げた注目のバンド「FEIN10TRAP（フェイントラップ）」。3月22日、四谷アウトブレイクで彼らのステージを観てきた。

既にご存知の方もいると思うが、Vo・真吾、G・翼、B・南智浩、Dr・英治郎の4人が作り出すステージには「華」がある。真吾と翼が中心となり、ヴォーカルの存在感を全面的に押し出した楽曲作りで「真吾ワールド」を演出している。オープニングはヴォーカルのアカペラから始まるセットリストで、ちょっと驚かされたが滑ることなく表現されていた。バックサウンドは各パート共FEIN10TRAPの世界観を引き出す演奏を心掛けている。誰が目立つという訳ではなくオーディエンスを包み込むような演奏で「動」と「静」また「陽」と「陰」の音の拡がりが気持ちいい。

「大人になりきれない子供のちょっと大人のロック」をコンセプトにしている彼らの演奏スタイルも見逃せない。ヴォーカルの立ち居振る舞い、オーバーアクションになりがちなギターの過激過ぎないプレイ、ベースは寡黙に、そしてドラムは後方で全体を見回し鼓動を打ち鳴らしている。

「目を開けると楽しく、閉じると世界が広がる様な音楽」を体験させてくれる彼らのライブは、バンドとしての活動が浅いと思わせない。磨き磨かれFEIN10TRAPの光が放たれるその日が楽しみである。

**INFORMATION**
- **4/23**・新大久保CLUB Voice
- **4/25**・池袋手刀
- **5/06**・池袋CYBER
- **5/30**・六本木morph-tokyo

# Life Guard

http://www.geocities.jp/i_love_fishing_lg/

G&Vo／YUTA、B／ONE、Dr／オカヤスの3人から成る埼玉県出身のPOP　PUNKバンド「Life　Guard」。2005年に結成、翌年5月に初ライブを行って以来、地元埼玉、都内を中心にライブを続け、最近は神奈川県にも自分達のサウンドを響かせている。そんな若い彼らが作り出す楽曲とは…。

今回iTunes Music Storeにアップされる「Right Answer」を聴いてみた。YUTA作詞作曲のポップでキャッチーなメロディ、歌い出しでリスナーを引きつけるあたり年齢を感じさせない曲作りをしている。若さから生まれるスピード感、メロディラインに同化した時、気持ち良さと共に自然と体が動き出す。3人が違ったジャンルの音楽を聴いているからこそ、それぞれの感性が集結してジャンルにとらわれることないLife Guardサウンドが表現されるのであろう。

「オーディエンスを飽きさせないステージ」を心掛け、「楽しんで、手を上げて、拍手をしてくれるようなライブ」をしている彼らは、印象に残るビジュアルを活かし、フロント二人のツイン・ヴォーカルの掛け合いで楽しい空間を作り出している。

今後、ラジオ、雑誌などのメディアにも登場するであろうLife　Guardだが、この夏には目に見える結果を出すことを目標にしている。「Right Answer」をダウンロードして、是非ライブに足を運んで欲しい。

**INFORMATION**
- **4/27**・登戸Stargicroom
- **4/28**・横浜FAD
- **5/06**・二子多摩川Pinknoise

歌&叫び / 健ぢ

Gt·Vo / HIZ

目標を定めることは誰でもできることだが、それを何人の人が成し遂げるだろうか。途中で挫折した人を「よくここまで頑張ったよ」と褒め称える者がいれば、「ここまでやってきたのだから、あと少し頑張れ!」と鼓舞する者、「口だけは立派だけど情けないね」と嘲笑う者と様々だ。私はそういう者達に言いたい。「同じ道を歩んでからモノを言え!」と。

今、私の知るバンドが自ら定めた目標に向かって走り続けている。その名は「HANABI」。2006年11月13日、渋谷CHELSEA HOTELで自主企画「第1回HANABI大会」を開催。以後2007年1月、3月と第2回、第3回と続けてきた。第1回目は4マン、第2回目は3マン、第3回は2マン、そして2007年5月19日、第4回は「大HANABI大会」としてワンマンライブを行う。自分達の限界への挑戦なのか、それとも…。

本誌創刊号で取り上げたGlitz　CaféのVo&G／HIZ、B／TAKUが昨年、歌&叫び担当に健ぢを迎え結成。ここに来てサポートでDrを叩いていたRAHIが正式メンバーとなり、いよいよ目標とする5月19日を睨んだ活動が本格化してきた。決して今までがいい加減な活動だと言う訳ではない。4人の気持ちが一つになった今、彼らに怖いモノはない。HANABIを取り巻く多くの人に支えられ、自分達を信じ突き進むのみである。

3月21日「第3回HANABI大会」を渋谷CHELSEA HOTELで観てきた。ホールにはイベント名に相応しく、たこ焼きなどの屋台が設営され、自主企画2マンという事で相方バンドの演奏中に健ぢがいきなり乱入し歌い上げるシーンも見られ、満員のオーディエンスは彼らの登場前から熱気を放っていた。そんな空気を感じ取った彼ら4人のモチベーションも更に上がり、オープニングからアクセル全開で、これぞ「一体感」という言葉が当てはまるライブが始まった。セットリストもMCの入れ方も次の楽曲へつながる見事なものだ。中盤に組み込まれたHIZのアコギ弾き語りソロ「声」という楽曲がある。この「声」は後ほど紹介する1stミニアルバムの中にも収録されている。とかく熱を帯びた空気を冷ますことが多いバラードだが、HIZが今まで自分の周りにいた大切な人との触れあい、そこから生まれた自分の成長を歌っていることから、オーディエンスは聞き流すことなく、歌詞の一語一句をまるで自分達の人生に置き換えたように聴き入っていた。確かにこの楽曲はツイン·ヴォーカル、コーラスを入れるよりも健ぢの言うとおり「HIZ兄ぃのソロでこそ」表現できる、オーディエンスに伝えることができると思う。これもHANABIの世界。また、HANABIの代表曲になるのは確実である。エンディングまでオーディエンスをHANABI

Dr / RAHI

B / TAKU

http://www.cubichouse.com/hanabi/

# HANABI

ワールドに閉じこめ、Glitz Café時代の代表曲とも言える「WIDE WORLD」で締め括る。当然の様に湧き上がるアンコール。再びステージに立つ彼らの表情には、満足感、達成感と共に今日のライブを成功に導いてくれたオーディエンスへの感謝の気持ちが溢れていた。

彼らは4月1日より「声」が収録された6曲入り1stミニアルバム「POWER CODE」を通販で発売している。訳あって彼らのライブを楽しめない方には朗報だ。また、5月よりiTunes Music Storeにて収録曲「RIOT」がダウンロードできるのでHANABIの世界観を知って頂きたい。この楽曲はHIZが音楽に携わってからHANABIになるまでの半生、また、この半年にかける思いを表したものでHANABIを理解する一曲だと思う。

半年計画を立て、今まで甘えていた時期の意味のないプライドを投げ捨て、抱いた疑問を解消するために、彼らはドロ臭いことから始めたというHANABI。今自分達にできることは何か。その一つが大きなライブ会場での出待ちを狙ってのフライヤーを配布。決して無意味なことではない。しかし、そこに着目するバンドが何組存在するだろうか。5月19日に向けて筋を通し、プラスになると思うこと貪欲に探し求め、行動に移す。ものの半年弱でここまでやった彼らには賛辞を送りたくなるが、今はあえて口を閉ざしておこうと思う。限界、ビジョンをどこまで形にできるか、渋谷CHELSEA HOTELでの大HANABI大会が待ち遠しい。5月19日、その時無意識のうちに私の口からどんな言葉が飛び出すのか、また言葉に表せない自分が立ちつくしているか想像もつかない。

願うなら、熱血メロ（ディ）ロックを一人でも多くのファン、まだHANABIを知らない音楽好きの人達と共に、彼らと同じ空気を吸い、同じ時間を過ごしながら楽しみたい。HANABIなら楽しませてくれると確信している。

最後になるが健ぢの言った一言「メディア（業界人）がいなくても音楽はできる」を聞いた後この記事を書こうと思い立った。

（文／齊藤正則）

**POWER CODE**

01.WIDE WORLD
02.RIOT
03.Sally -album ver.
04.声
05.restart -album ver.
06.パワピタンZ

*1800 yen* [tax in]